

Internet Explorer 11 にて発生する事象 及び 対処方法について

平成 29 年 11 月 22 日

コア開発リリースG

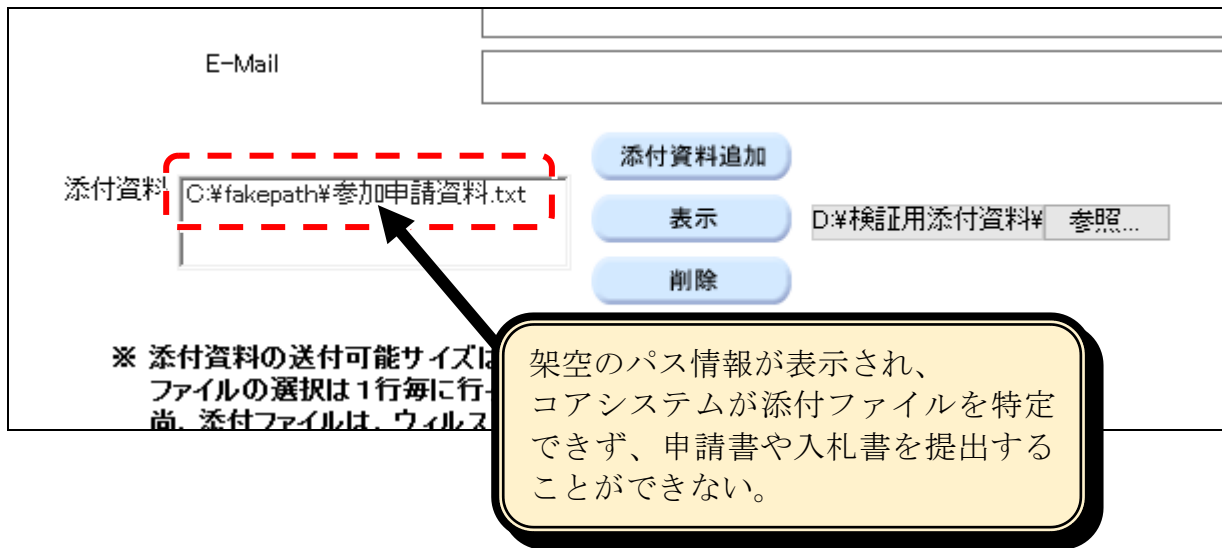
コアシステムサービスセンタ

コアシステムにおいて Internet Explorer 11（以下 IE11）で発生することが確認された事象とその対処方法につきまして、以下に説明します。

表 1 IE 1 1 で発生することが確認された事象と対処方法

項番	IE 1 1 で確認された事象	対処方法
1	添付ファイルのファイルパス情報が消失し提出できない	以下のいずれかにより回避可能。(p.2) 【回避策 1】信頼済みサイトへ登録する方法 【回避策 2】インターネットオプションの設定を変更する方法
2	画面が崩れて表示された	コアシステムの Web サイトを互換表示対象に登録することで回避可能。(p.9)
3	通信中ダイアログ等のポップアップ画面が表示されない	以下のいずれかの方法により回避可能。(p.12) 【回避策 1】「ポップアップを許可するサイト」へ登録する方法 【回避策 2】「信頼済みサイト」でのポップアップブロックを無効にする方法
4	ファイルパス編集ボックスに直接入力できない	「参照」ボタンを押下してファイルを指定することで回避可能（コアシステムの基本操作）。(p.17)

【事象 1】 添付ファイルのファイルパス情報が消失し提出できない



<回避策>

以下のいずれかの方法により回避可能です。

※ 回避策1の方法はコアシステムのWebサイト個別に設定が有効となるのに対し、回避策2の方法はコアシステム以外のWebサイトに対しても設定が有効となります。このため、特別な事情が無い限り回避策1の方法でご対応ください。

《回避策1》信頼済みサイトへ登録する方法

「インターネットオプション」－「セキュリティ」の「信頼済みサイト」の設定画面にて、コアシステムのWebサイトアドレスを「Webサイト」に登録することで回避できます。

《回避策2》インターネットオプションの設定を変更する方法

「インターネットオプション」－「セキュリティ」でコアシステムを利用するゾーンを選択し、「レベルのカスタマイズ」にて設定を変更することで回避できます。

注意

本設定によって「サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める」設定を有効にした場合、設定したゾーンが該当するコアシステム以外のサーバーに対してファイルをアップロードする際もローカルディレクトリのパス情報が送信されます。

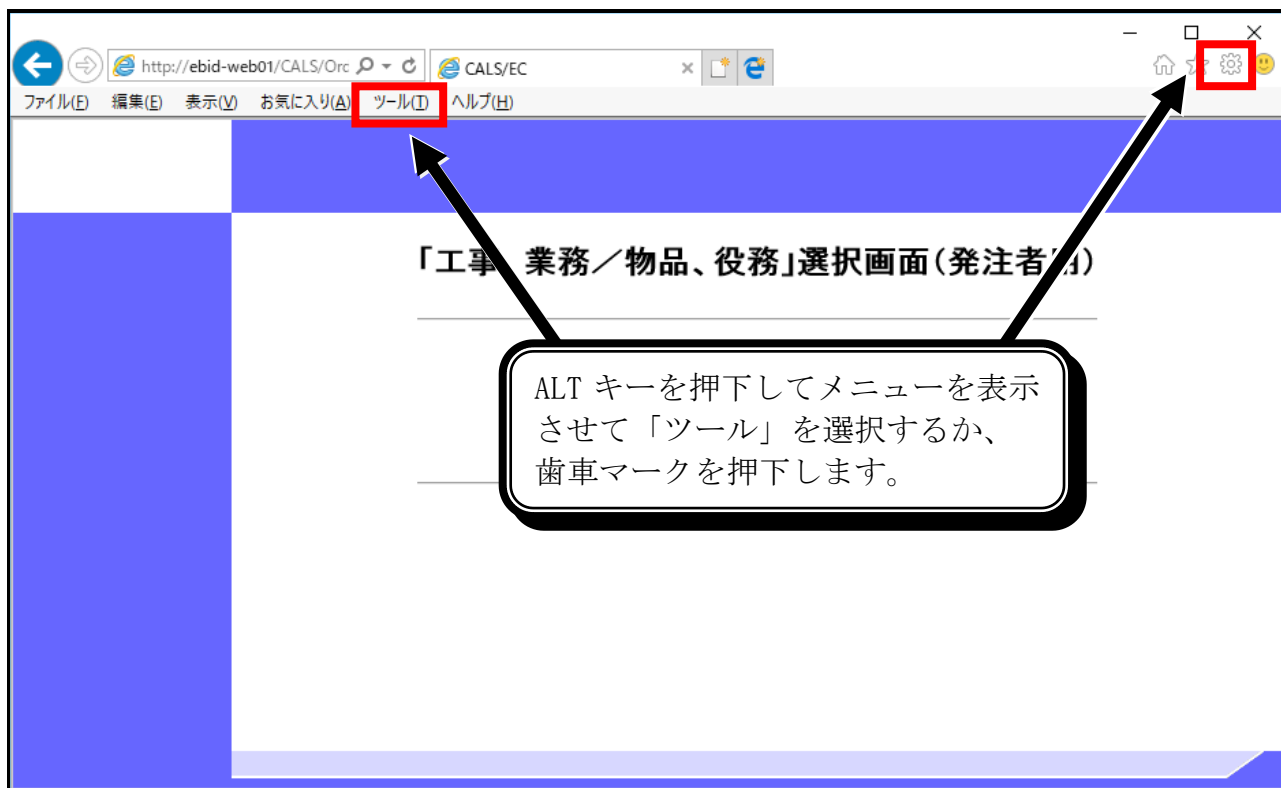
<補足> 信頼済みサイトのセキュリティレベルが「中高」以上の場合

IE11のデフォルトでは、信頼済みサイトのセキュリティレベルは「中」に設定されていますが、ご利用の環境によってはこの値が「中高」以上に変更されている場合があります。この場合、「回避策1 信頼済みサイトへ登録する方法」のみでは本事象を回避できませんので、セキュリティレベルを「中」に変更するか「回避策2 インターネットオプションの設定を変更する方法」をあわせて実施する必要があります。

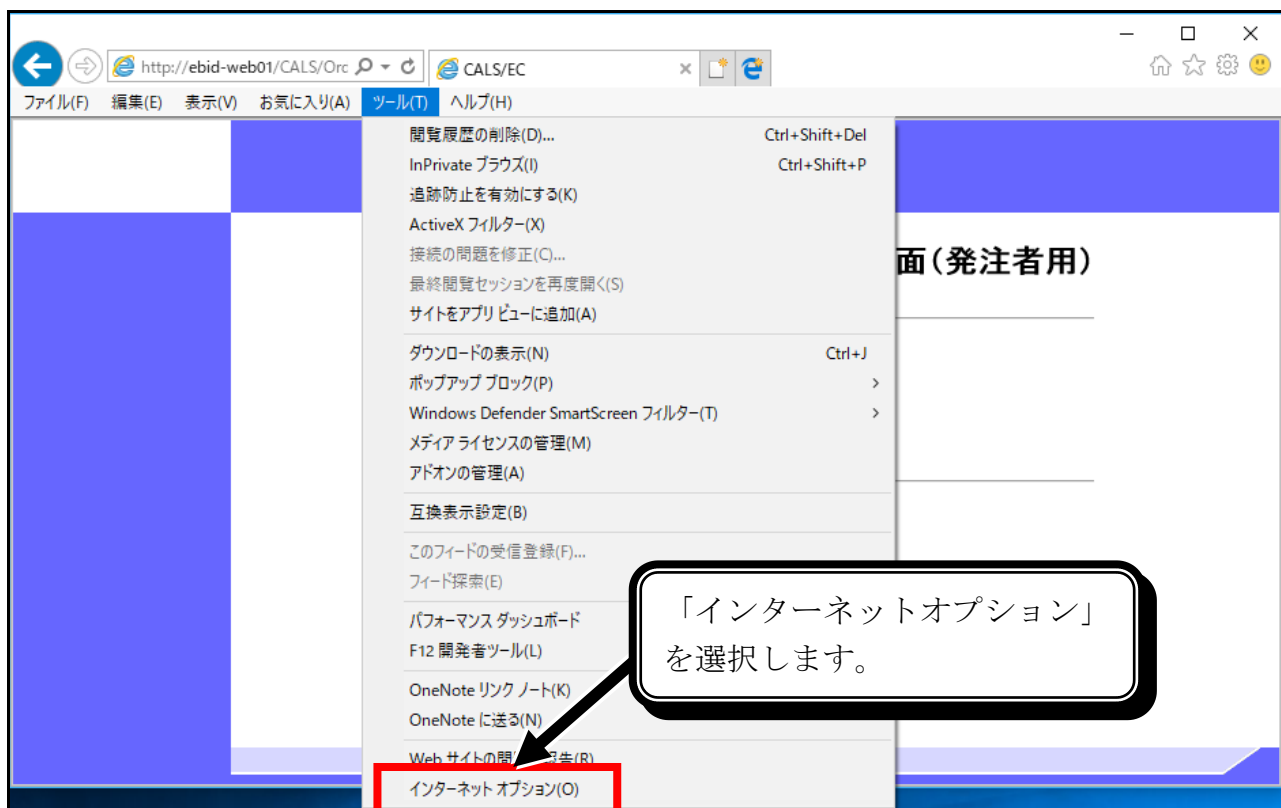
《回避策 1》信頼済みサイトへ登録する方法

「インターネットオプション」－「セキュリティ」の「信頼済みサイト」の設定画面にて、コアシステムの Web サイトアドレスを「Web サイト」に登録することで回避できます。

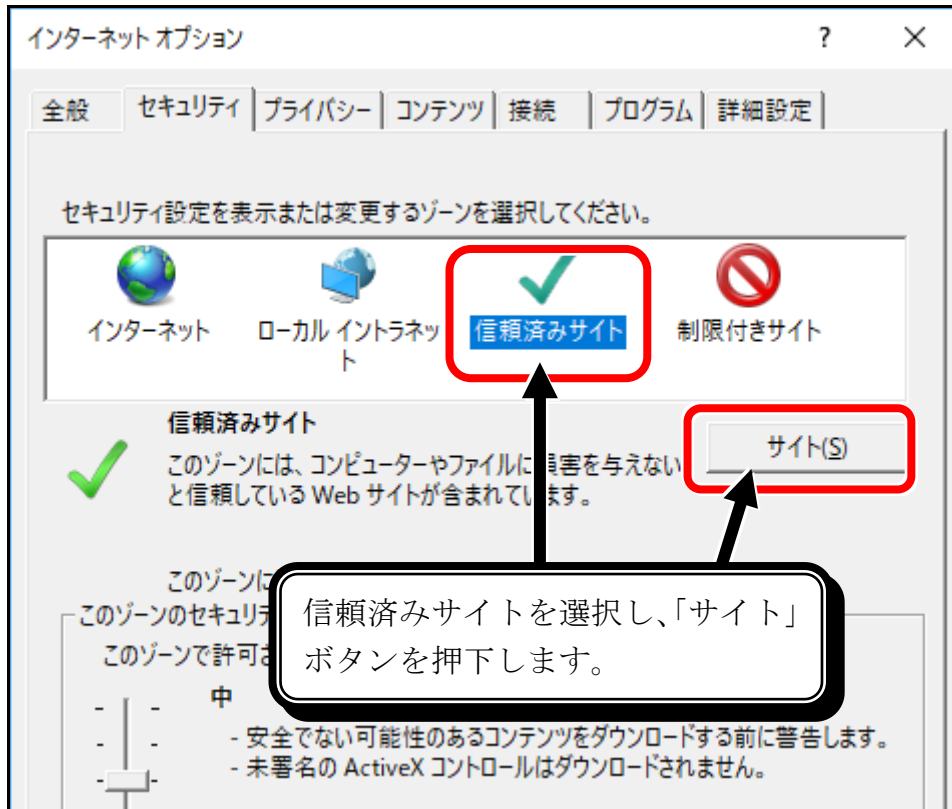
(1) 「ツール」のプルダウンメニューを表示させます。



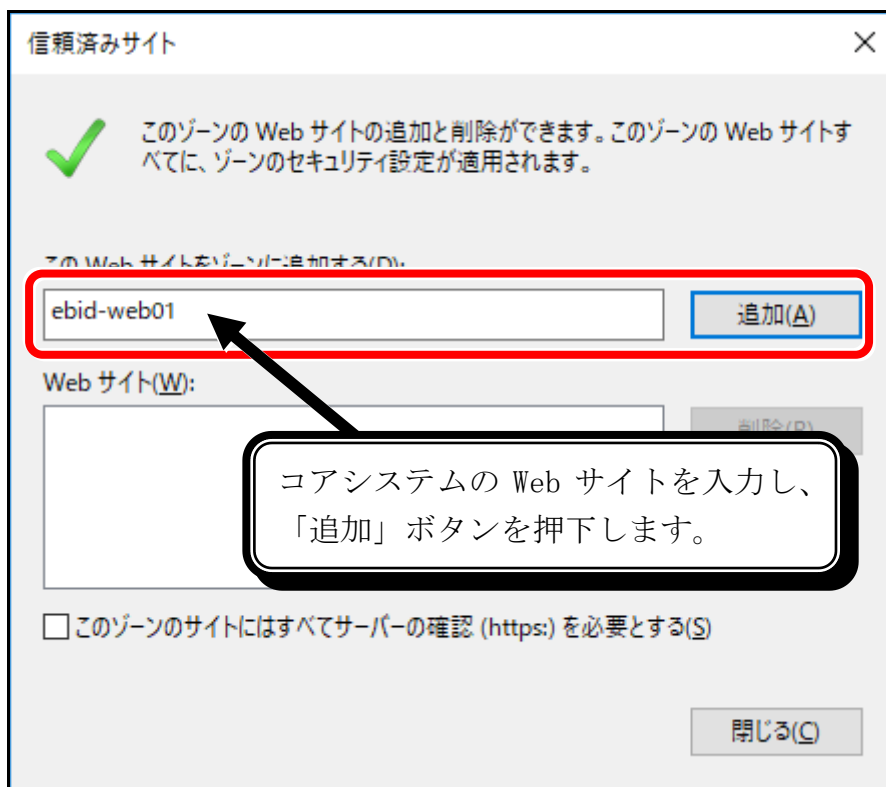
(2) 「インターネット オプション」を選択します。



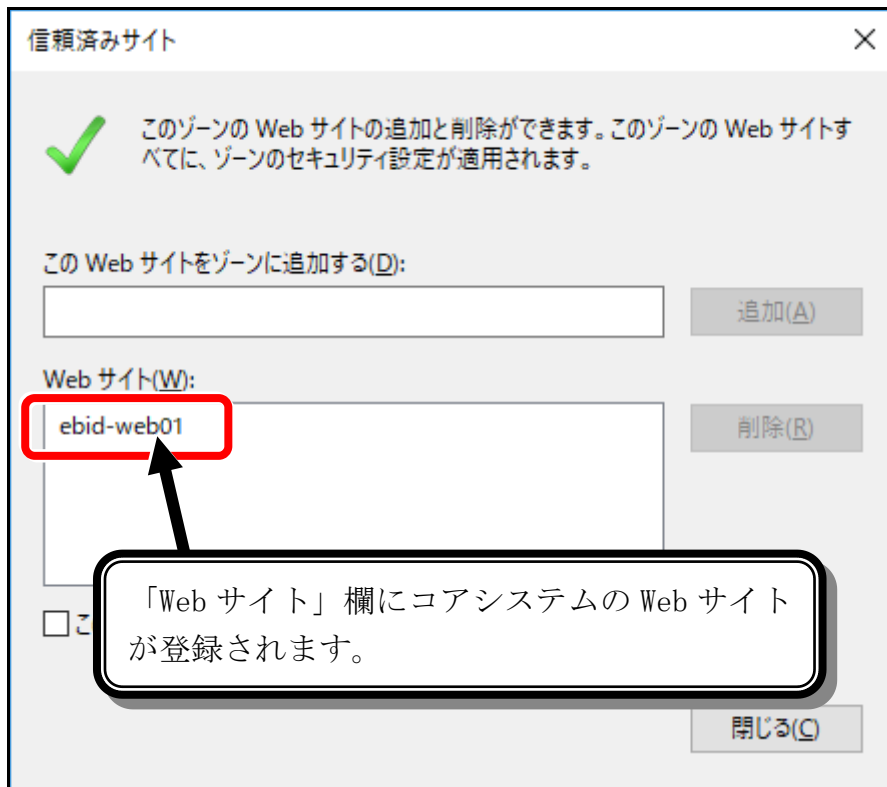
- (3) 「セキュリティ」タブで「信頼済みサイト」を選択し「サイト」ボタンを押下します。



- (4) コアシステムの Web サイトを追加します。



- (5) 「Web サイト」欄にコアシステムの Web サイトが登録されます。



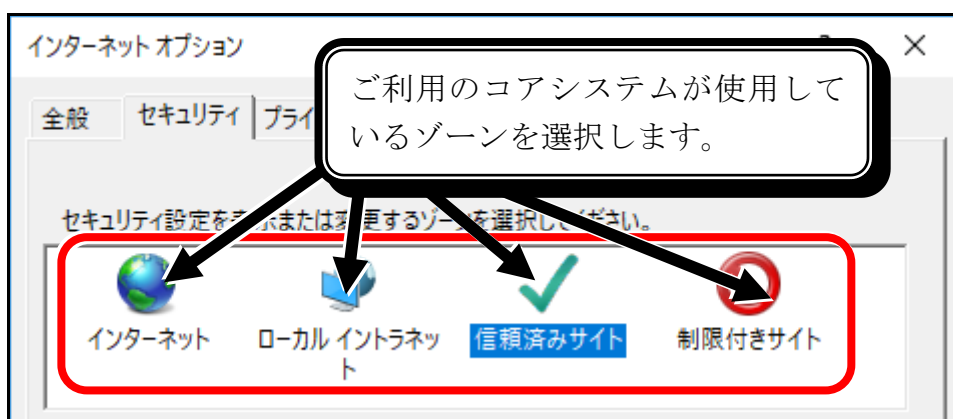
《回避策2》インターネットオプションの設定を変更する方法

「インターネットオプション」の「セキュリティ」タブから、ご利用のコアシステムが使用しているゾーンを選択し、「レベルのカスタマイズ」にて設定を変更することで回避できます。

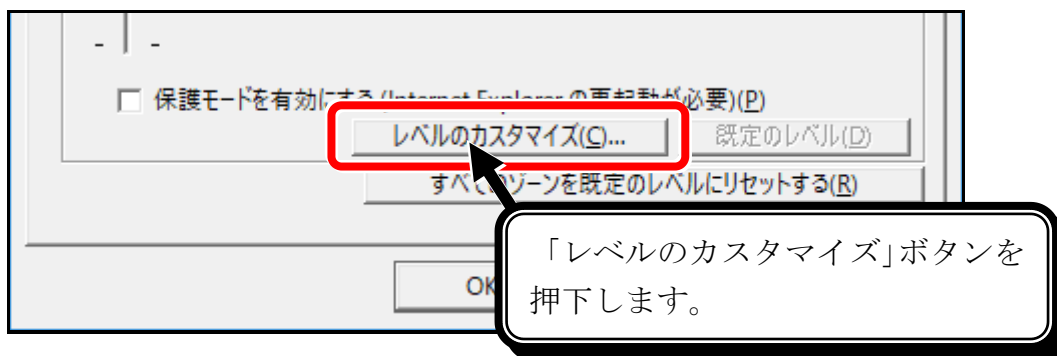
注意

本設定によって「サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める」設定を有効にした場合、設定したゾーンが該当するコアシステム以外のサーバーに対してファイルをアップロードする際もローカルディレクトリのパス情報が送信されます。

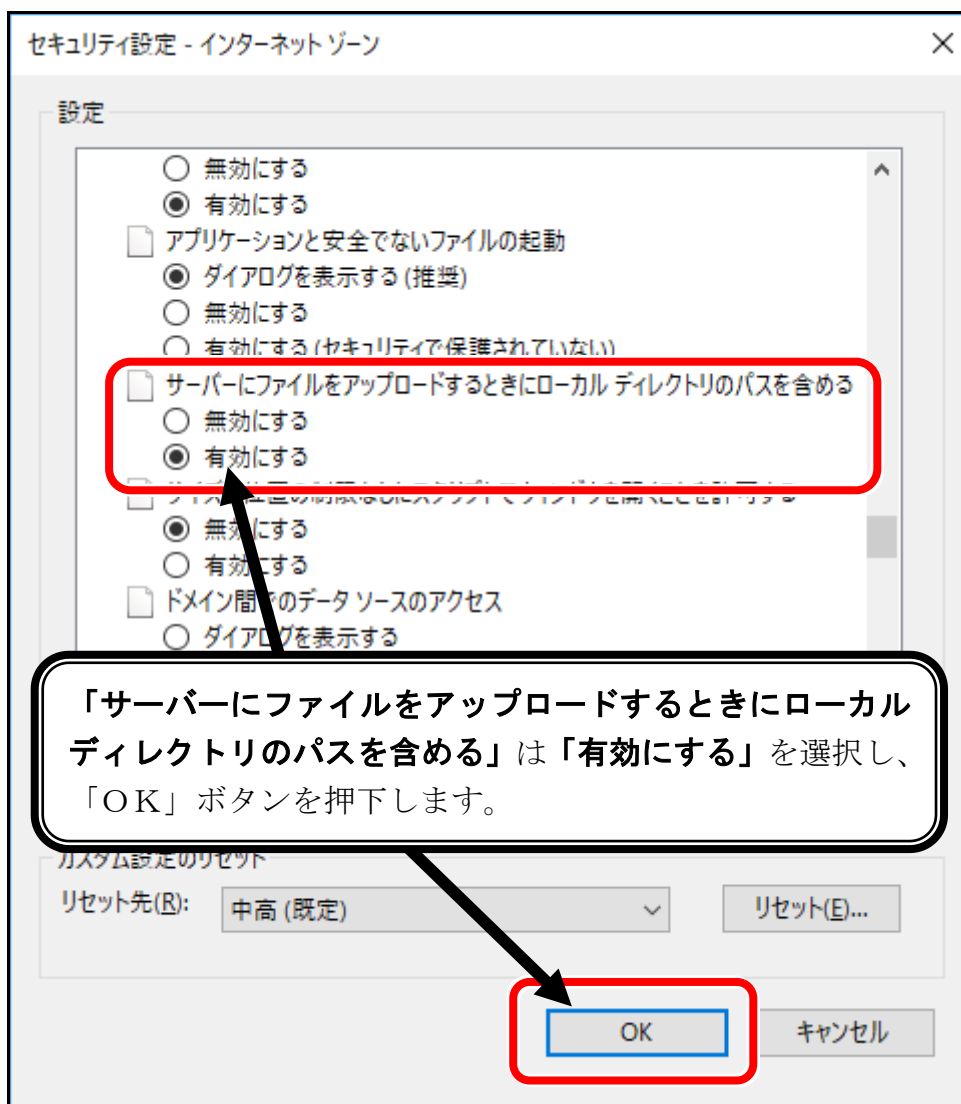
- (1) 「インターネットオプション」の「セキュリティ」タブから、ご利用のコアシステムが使用しているゾーンを選択します。



- (2) 「レベルのカスタマイズ」ボタンを押下します。



- (3) 「サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める」は「有効にする」を選択し、「OK」ボタンを押下します。

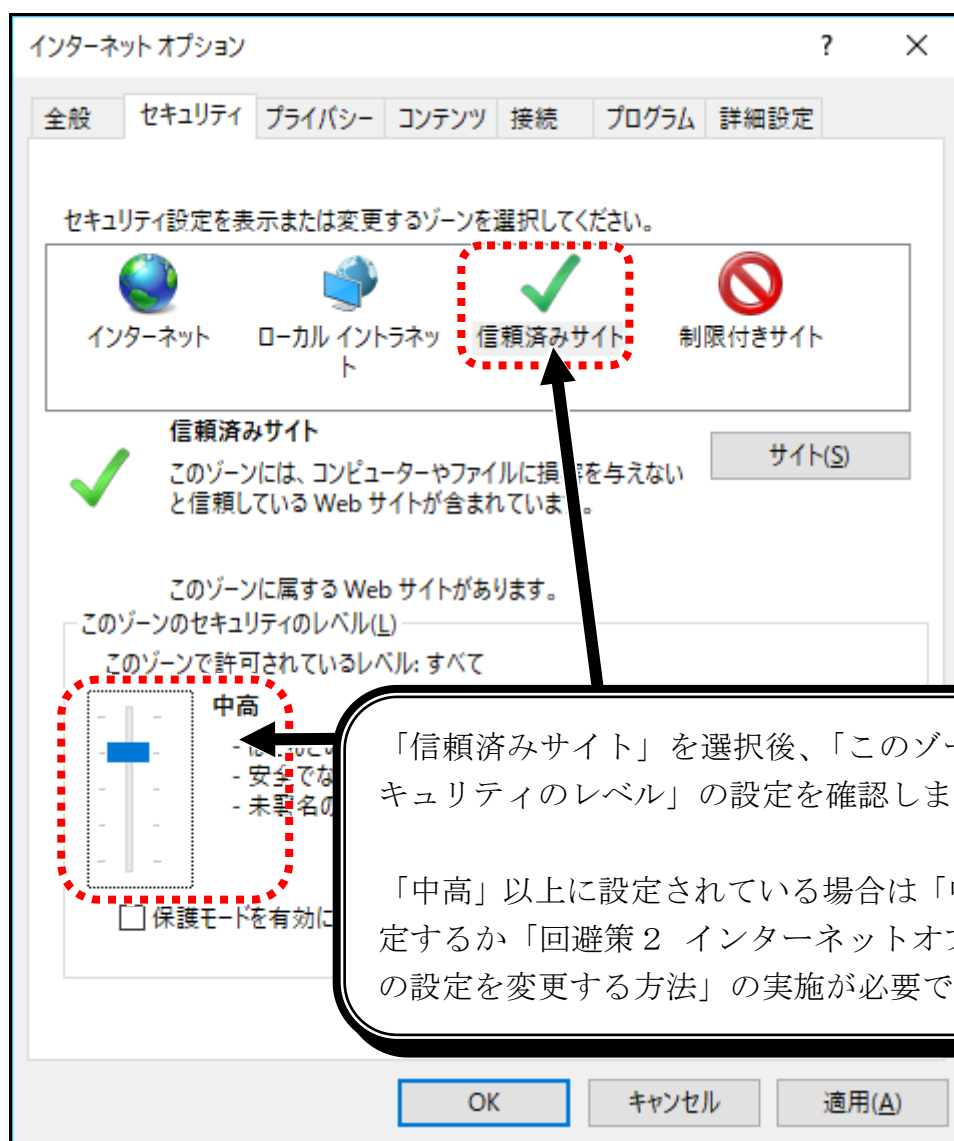


＜補足＞ 信頼済みサイトのセキュリティレベルが「中高」以上の場合

IE11 のデフォルトでは、信頼済みサイトのセキュリティレベルは「中」に設定されていますが、ご利用の環境によってはこの値が「中高」以上に設定されている場合があります。この場合、「回避策1 信頼済みサイトへ登録する方法」のみでは本事象を回避できませんので、セキュリティレベルを「中」に変更するか「回避策2 インターネットオプションの設定を変更する方法」をあわせて実施する必要があります。

[信頼済みサイトのセキュリティレベルの確認方法]

「インターネットオプション」の「セキュリティ」タブにて「信頼済みサイト」を選択後、「このゾーンのセキュリティのレベル」の設定を確認します。



【事象2】画面が崩れて表示された

特定の条件で画面が崩れて表示されることがあります。

【例】下記の例では、表示内容が左に寄っています。

The screenshot shows a web browser window displaying the CALS/EC electronic tender system. The interface is divided into a left sidebar with navigation menus and a main content area. The main content area contains a form for a '技術資料受付票' (Technical Information Receipt Form). A red dashed box highlights the main content area, and a yellow arrow points to the left with the text '全体的に左に寄っている' (Overall shifted to the left).

企業ID	2102000000000014	支出負担行為担当官
企業名称	有限会社FF	関東地方整備局長
氏名	殿	テスト 太郎

平成29年06月21日

技術資料受付票

下記の調達案件について下記の日時に受領致しました。

記

受領番号	21020300101201700041101019999
調達案件番号	2102030010120170004
調達案件名称	04_技術資料受付票発行済み
受付日時	平成29年06月21日 17時22分

印刷 戻る

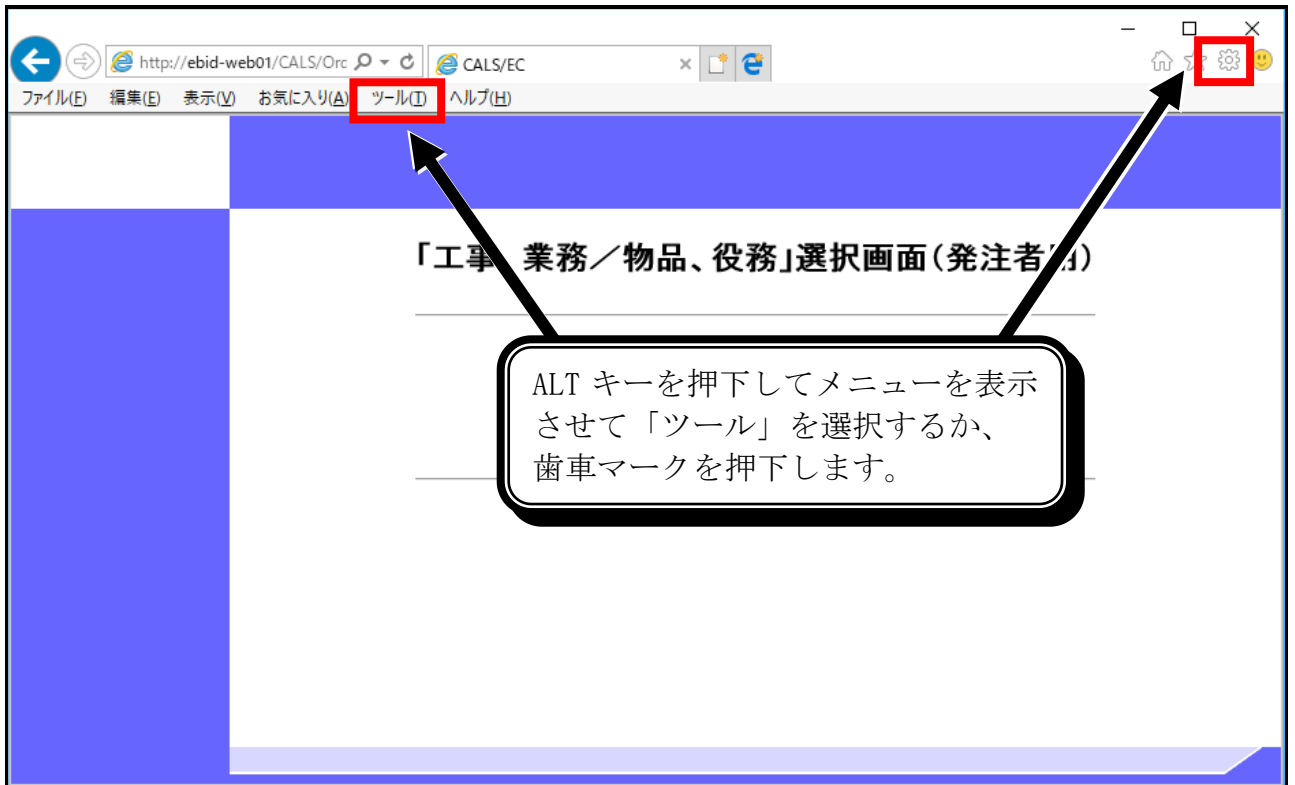
＜回避策＞ コアシステムの Web サイトを互換表示対象に登録する

「互換表示設定」の設定画面にて、コアシステムの Web サイトアドレスを「互換表示に追加した Web サイト」に登録します。

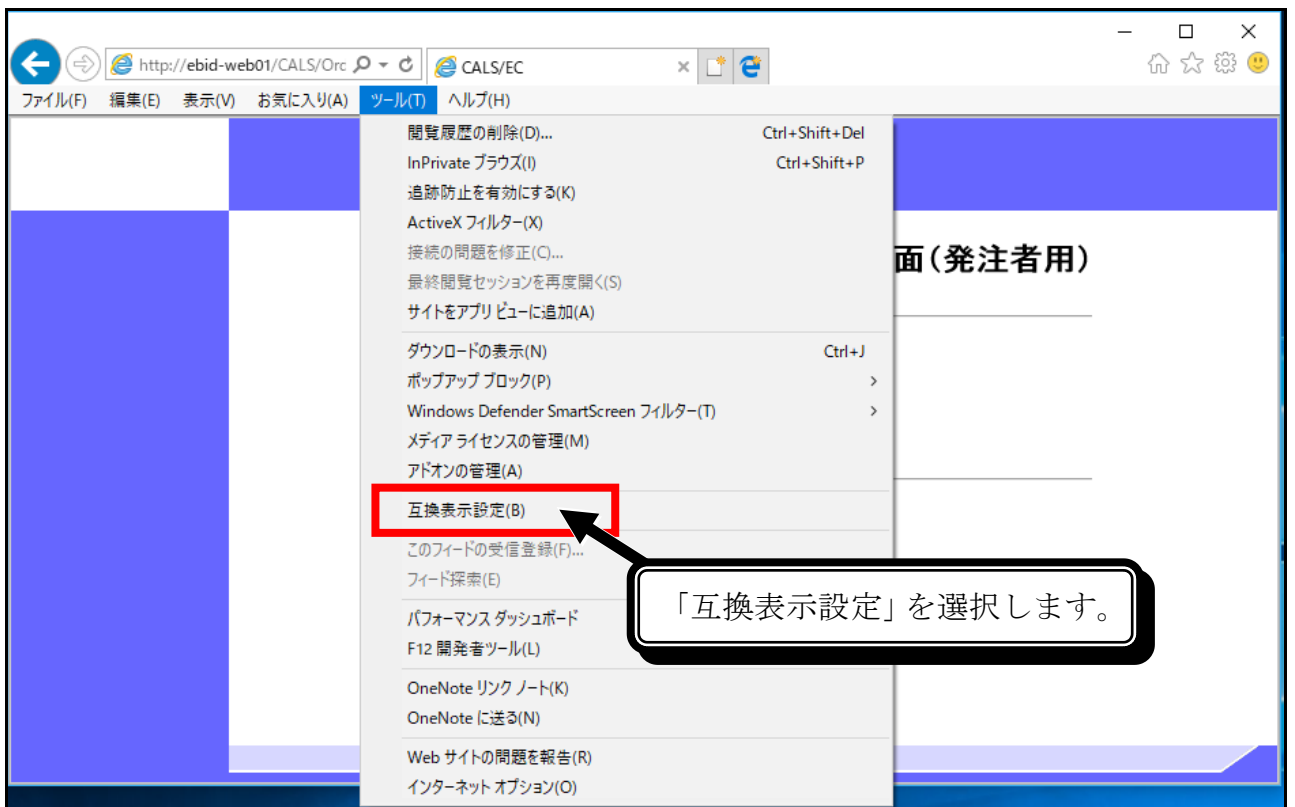
次ページ以降に回避策についての手順を示します。

<回避策> コアシステムの Web サイトを互換表示対象に登録する

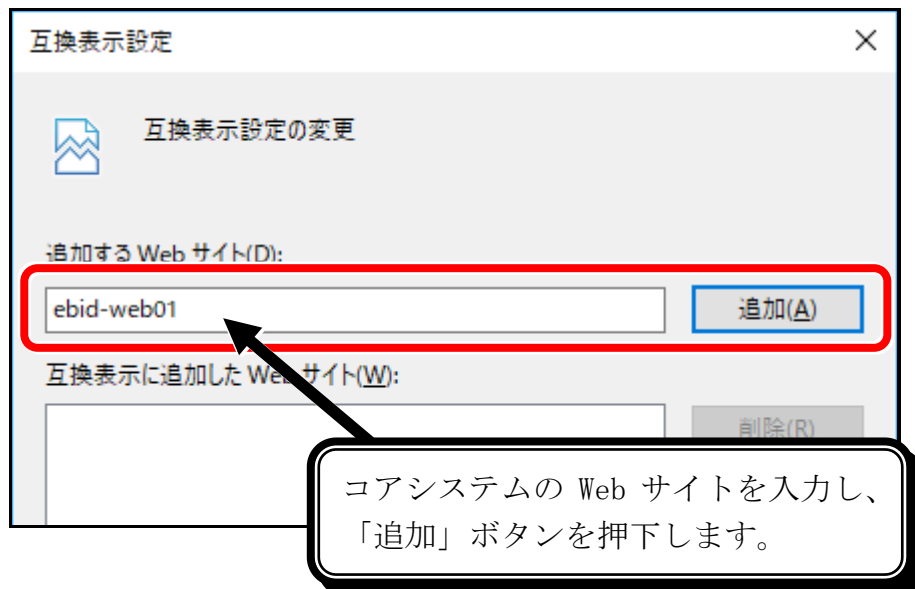
(1) 「ツール」のプルダウンメニューを表示させます。



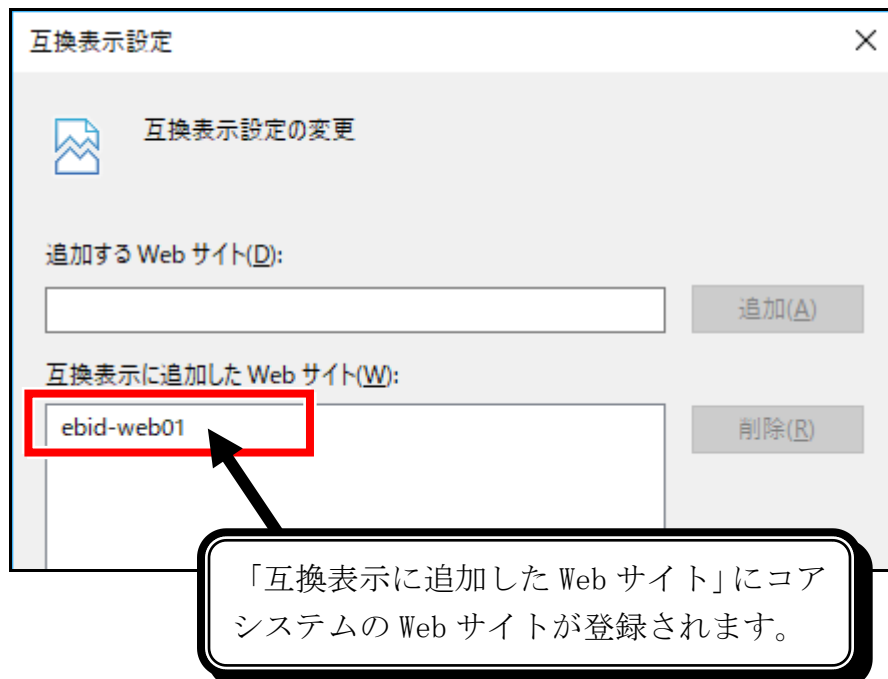
(2) 「互換表示設定」を選択します。



- (3) 「追加する Web サイト」にコアシステムの Web サイトを入力し、「追加」ボタンを押下します。

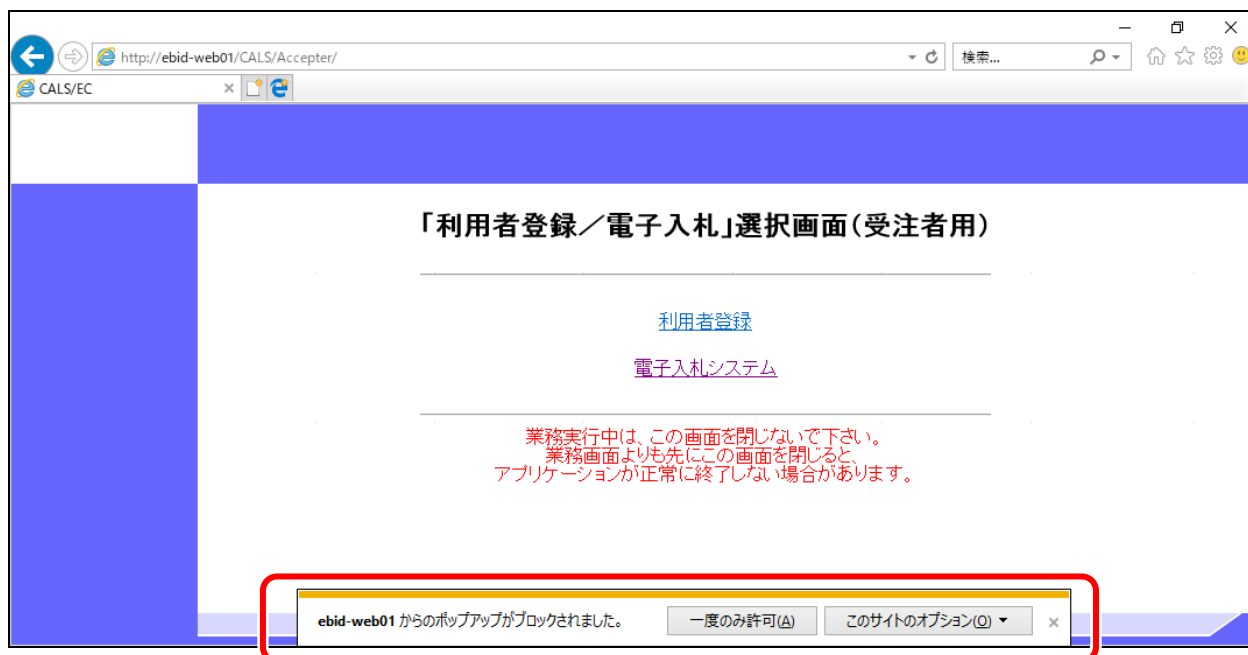


- (4) 「互換表示に追加した Web サイト」にコアシステムの Web サイトが登録されます。



【事象3】ポップアップダイアログが表示されない

通信中ダイアログ等の「ポップアップ画面」がブロックされ、表示されない場合があります。



<回避策>

以下のいずれかの方法により回避可能です。

※ 回避策1の方法はコアシステムのWebサイト個別に設定が有効となるのに対し、回避策2の方法はコアシステム以外のWebサイトに対しても設定が有効となります。このため、特別な事情が無い限り回避策1の方法でご対応ください。

《回避策1》「ポップアップを許可するサイト」へ登録する方法

「インターネットオプション」の「プライバシー」タブでポップアップブロックの「設定」ボタンを押下し、表示された「ポップアップブロックの設定」画面の「許可するWebサイトのアドレス」からコアシステムのWebサイトアドレスを登録することで回避できます。

《回避策2》「信頼済みサイト」でのポップアップブロックを無効にする方法

「インターネットオプション」の「セキュリティ」タブで「信頼済みサイト」を選択し、「レベルのカスタマイズ」ボタンを押下して表示される設定画面の「ポップアップブロックの使用」を「無効にする」に変更することで回避できます。(前提：事象1の回避策1が設定済である事)

注意

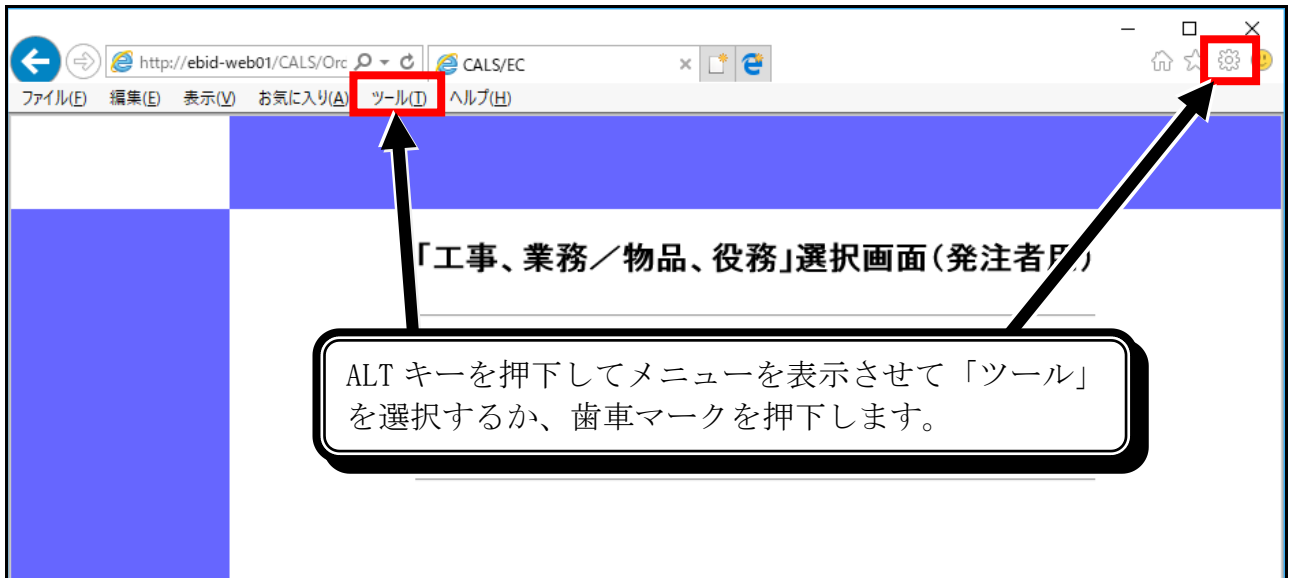
本設定によって「ポップアップブロックの使用」を無効にした場合、「信頼済みサイト」に登録されているコアシステム以外のサイトにアクセスした場合においてもポップアップブロックが無効となります。

次ページ以降にそれぞれの回避策についての手順を示します。

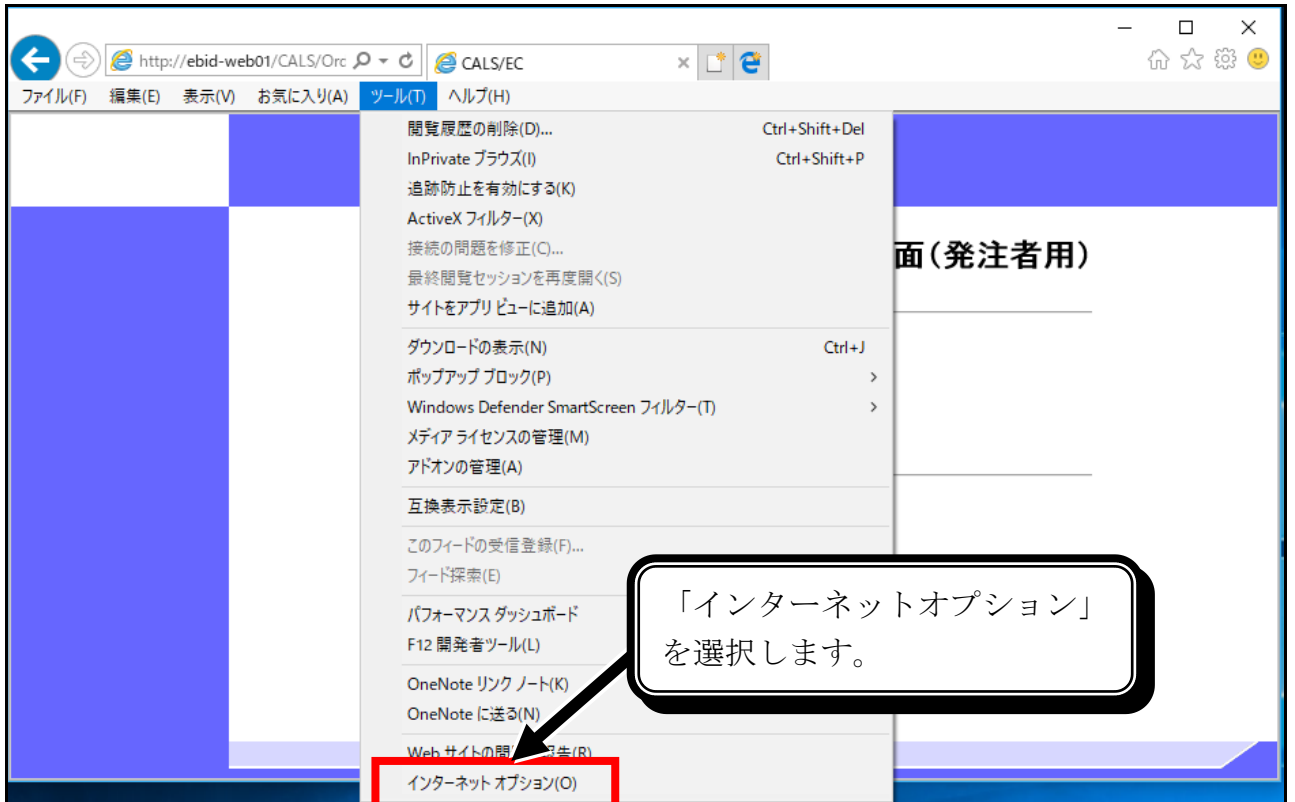
《回避策1》「ポップアップを許可するサイト」へ登録する方法

「インターネットオプション」の「プライバシー」タブでポップアップブロックの「設定」ボタンを押下し、表示された「ポップアップブロックの設定」画面の「許可する Web サイトのアドレス」からコアシステムの Web サイトアドレスを登録することで回避できます。

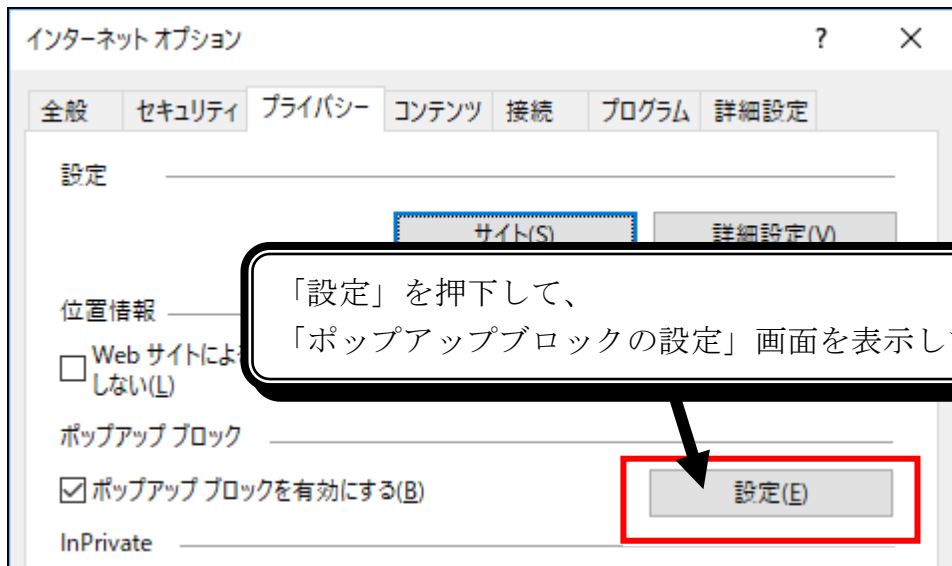
(1) 「ツール」のプルダウンメニューを表示させます。



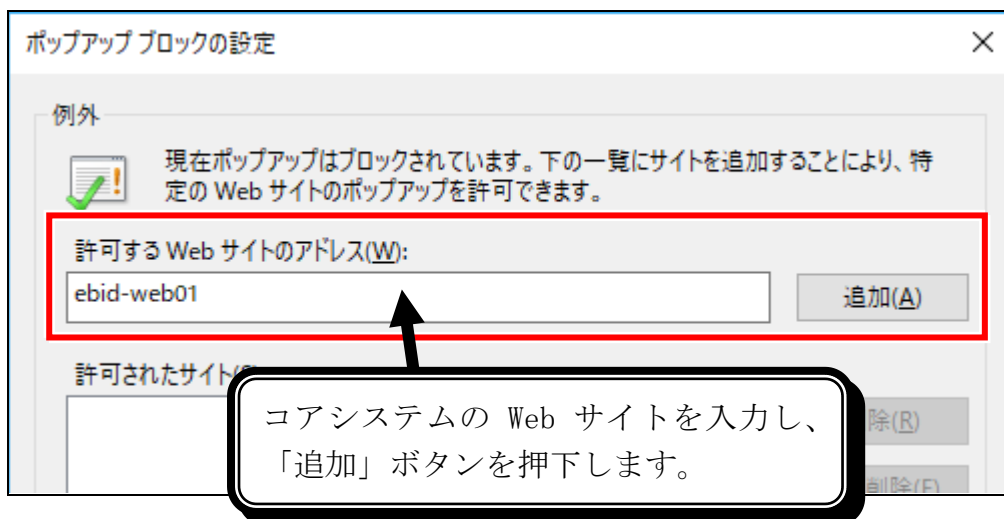
(2) 「インターネット オプション」を選択します。



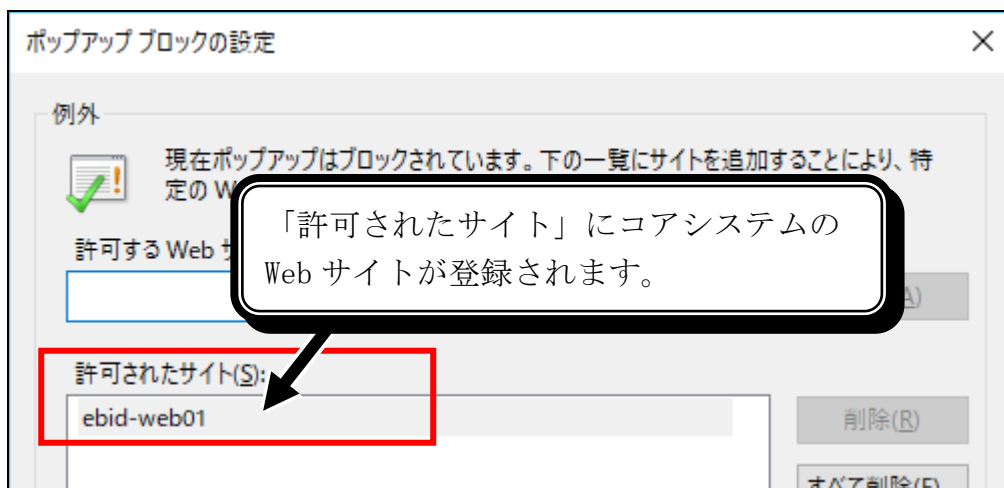
(3) ポップアップブロックの「設定」ボタンを押下します。



(4) 「許可する Web サイトのアドレス」欄にコアシステムの Web サイトのアドレスを入力し、「追加」ボタンを押下します。



(5) 「許可されたサイト」にコアシステムの Web サイトが登録されます。



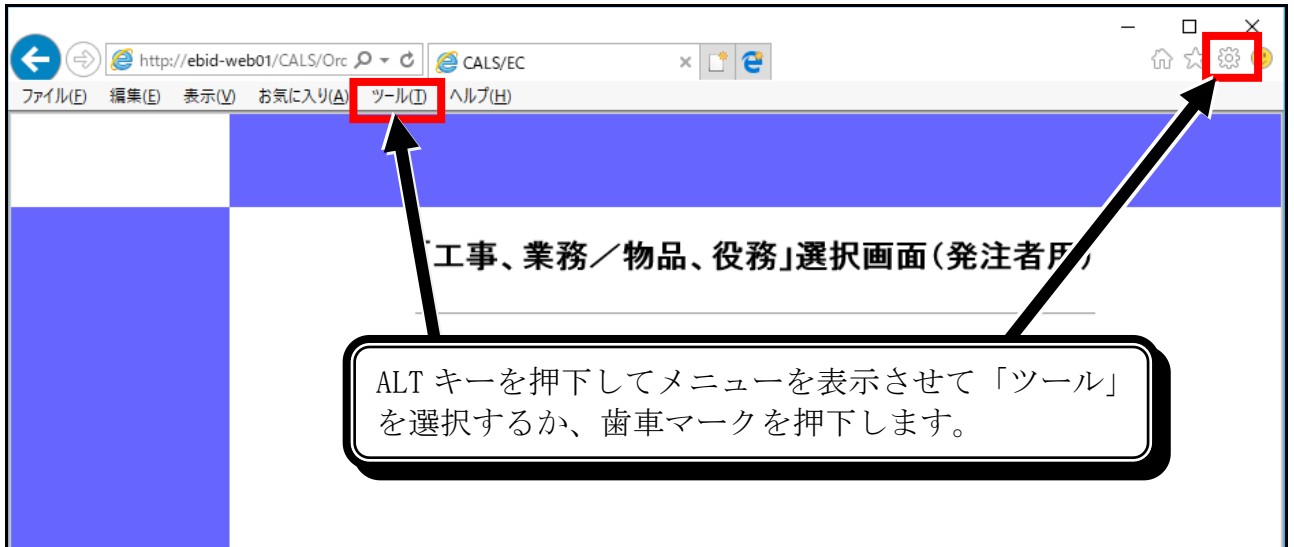
《回避策2》「信頼済みサイト」でのポップアップブロックを無効にする方法

「インターネットオプション」の「セキュリティ」タブで「信頼済みサイト」を選択し、「レベルのカスタマイズ」ボタンを押下して表示される設定画面の「ポップアップブロックの使用」を「無効にする」に変更することで回避できます。(前提：事象1の回避策1が設定済である事)

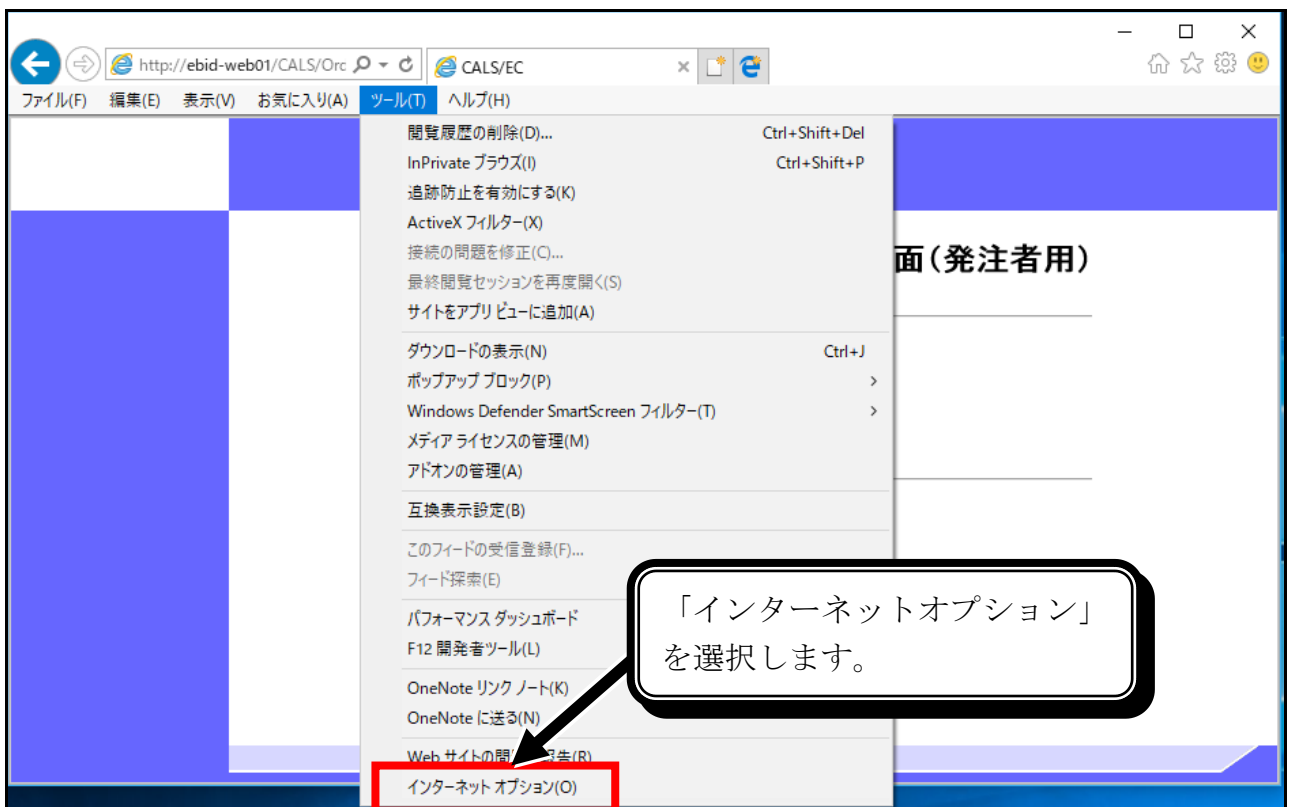
注意

本設定によって「ポップアップブロックの使用」を無効にした場合、「信頼済みサイト」に登録されているコアシステム以外のサイトにアクセスした場合においてもポップアップブロックが無効となります。

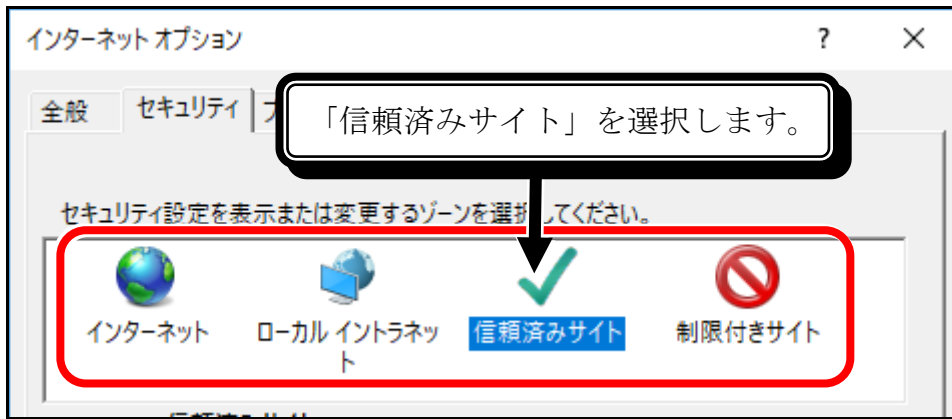
(1) 「ツール」のメニューを表示させます。



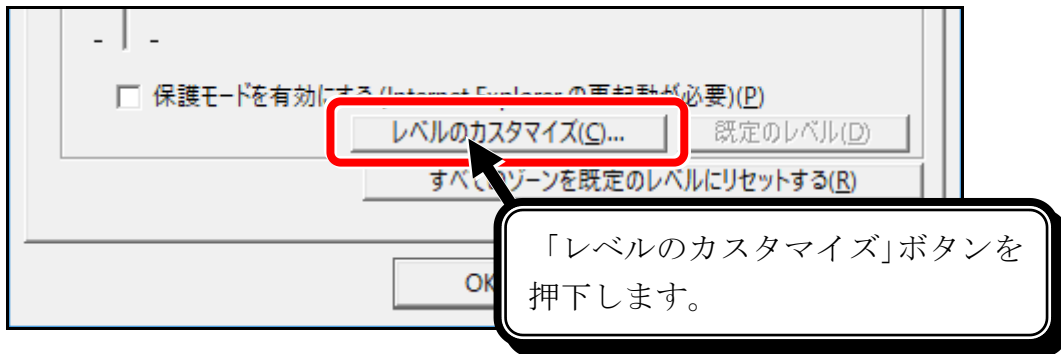
(2) 「インターネット オプション」を選択します。



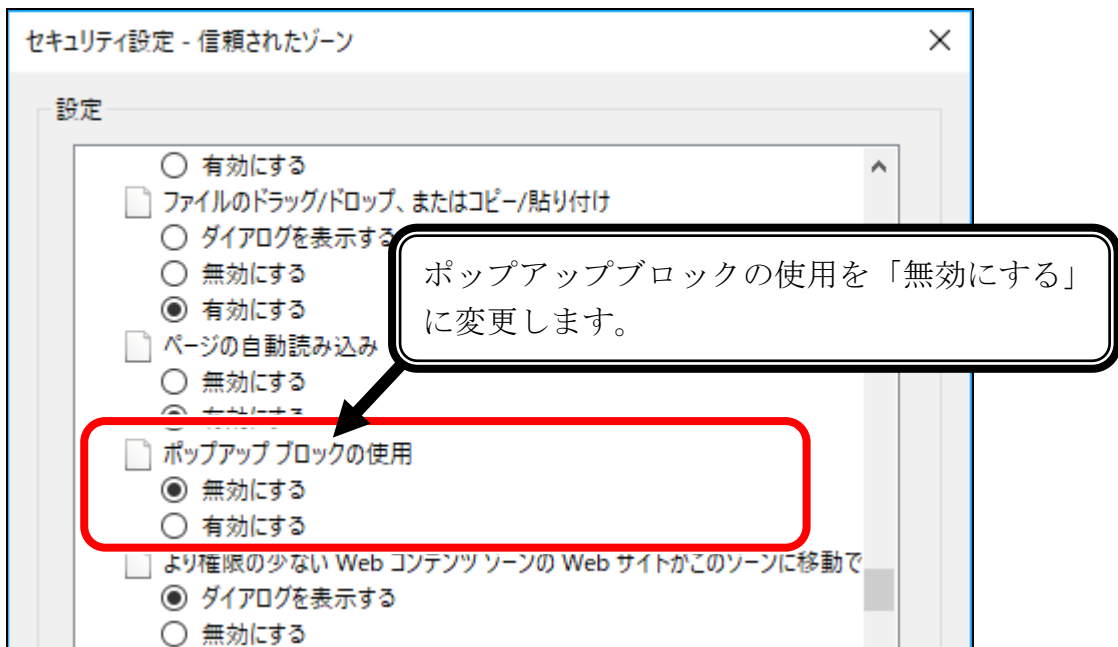
- (3) 「インターネットオプション」の「セキュリティ」タブで「信頼済みサイト」を選択します。



- (4) 「レベルのカスタマイズ」ボタンを押下します。



- (5) ポップアップブロックの使用を「無効にする」に変更し、「OK」ボタンを押下します。



【事象4】ファイルパス編集ボックスに直接入力できない

申請書等提出時のファイルを添付する際の「参照」ボタン横のファイルパス編集ボックスには、直接入力できなくなりました。

連絡先電話番号

連絡先E-Mail

添付資料

添付資料追加

表示

削除

参照...

※ 添付資料の送付可能サイズは... ファイルの選択は1行毎に行... 尚、添付ファイルは、ウイルス...

提出内容確認

戻る

<詳細>

ブラウザのセキュリティ強化により、ファイルアップロードコントロール(<input type=file>タグ)のファイルパス編集ボックスが、IE8 から読み取り専用になっています^(※)。

「参照」ボタンを押下してファイルを指定する通常の実行を行う場合は、上記の影響はありません。

(※) 「Internet Explorer 8 のセキュリティ:総合的な保護」 - 「ファイルのアップロード制御」
<<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/ie/dd218483.aspx>>

以上

更新履歴		
2017/11/22	第1版	新規作成 ・ IE11 で発生する事象を整理した